

第6章

ミャンマー 市場経済化と農業発展

岡本 郁子

要約：ミャンマー農業は 1980 年代末の市場経済化以後、急速に国際市場との連関を強め、市場変動に大きく左右されるようになった。本稿は、そうしたミャンマーの農家をとりにくく市場環境を、統計データに依拠しながら概観した。その結果、(国際)市場とのリンクを強めた生産環境によって、ミャンマーの主要農作物の成長に大きな差異が生まれたことがわかった。

キーワード：ミャンマー グローバリゼーション 農業 統計

はじめに

ミャンマーは、1960 年代初頭からの「ビルマ式社会主義」と呼ばれる計画経済体制を経て、1980 年代末に市場経済体制への移行を開始した。それは同時に、40 年以上閉ざしてきた国際市場への門戸を開くものであった。この結果、農業部門も市場経済化、とりわけ開放経済化の波に大きく洗われることとなった。そこから恩恵を享受した農家が存在する一方で、一部社会主義的色彩が濃く残る統制が継続したために新たな困難に直面する農家が生まれた。本稿の目的は、そうしたミャンマー農業をとりにくく市場変化を統計に依拠しながら概観することにある。

1. 農業部門の位置づけ

最初にミャンマー国民経済における農業部門の変化を検討する(表 1)。広義の農業部門は社会主義期から市場経済化移行を通じて GDP の 45% 以上(1985/86 年固定価格)を

占め、その比重はほとんど変わらない。すなわち、農業部門の重要性は市場経済化後も不変であるといつてよい。重要な点は、農業部門の GDP シェアの固定価格表示と当該年価格表示の数値を比較した場合、1988 年以後後者が前者を大きく上回るようになったということである。これは、社会主義期において、政策的に低く抑制されてきた農産物価格が統制解除に伴い急激に上昇した事実を反映している。

表 1 . 農業部門の GDP 構成比

部門	1970/ 71	1980/ 81	1985/ 86	1987/ 88	1989/ 90	1991/ 92	1993/ 94	1995/ 96	1997/ 98	1999/ 2000	2001/ 02
GDP内訳 (1985/86年 価格)	農業	47.5	47.9	48.2	48.6	48.3	46.7	45.1	43.6	43.2	55.9
	耕種	37.9	39.4	39.7	39.3	39.0	37.5	37.1	35.2	34.4	47.4
	畜産・水産	7.8	7.0	7.1	7.9	7.4	7.2	7.2	6.8	7.3	7.9
	林業	1.8	1.5	1.4	1.3	1.8	1.9	1.6	1.1	1.0	1.0
	製造業	9.8	9.6	9.9	9.2	9.3	9.1	9.1	9.3	9.1	9.4
GDP内訳 (当該年 価格)	農業	38.3	46.5	48.2	55.3	57.0	58.8	63.0	60.0	59.9	57.1
	耕種	27.8	38.8	39.7	45.0	47.2	48.4	54.1	53.2	52.1	49.0
	畜産・水産	7.7	6.3	7.1	9.2	8.1	8.8	7.7	6.0	6.2	7.2
	林業	2.8	1.5	1.4	1.1	1.7	1.6	1.2	0.8	0.6	0.5
	製造業	10.4	9.5	9.9	7.8	8.6	7.0	6.8	6.9	7.1	6.5

(注 1) 2001/02 は 2000/01 年度固定価格に基づく。

(注 2) 年度は 4 月から翌年 3 月まで。

(出所) The Government of the Union of Myanmar (以下、GUM), *Statistical Year Book* (1991,1997,2003 年版).

The Government of the Socialist Republic of the Union of Burma (以下、GSRUB)

Report the Pyithu Hluttaw on the Financial, Economic and Social Conditions of the Socialist Republic of the Union of Burma (1997/78 年版).

2 . 農産物市場

では、ミャンマーの農産物市場はいかなる変化を遂げたのであろうか。まず、農産物輸出入の変化を見よう。

農産物輸出の輸出額全体に占める比重は、社会主義期に比して 50-70% と大きく減少していない(表 2)。1990 年代末には、天然ガスや縫製品などの非農産品輸出が拡大したために、比率こそ減少するが、絶対額では依然上昇を見せている。

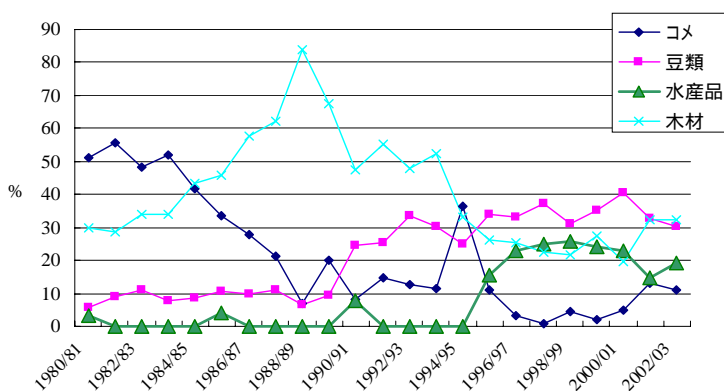
表2 品目別輸出額とシェア

輸出額(百万チャット)	1980/81	1985/86	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98	1998/99	1999/2000	2000/01	2001/02	2002/03
農産品	1,761	1,126	942	750	1,034	1,137	2,148	2,321	1,981	1,952	1,890	1,602	2,312	3,021	2,808
コメ	1,355	763	172	251	249	268	1,166	440	126	38	167	65	208	754	633
マメ類	152	238	515	429	667	724	799	1,358	1,272	1,403	1,135	1,179	1,658	1,898	1,760
メイズ	11	15	13	28	30	28	49	46	107	45	116	54	92	59	139
オイルケーキ	46	32	11	8	17	26	12	12	4		1	2			
ゴム	82	56	3	34	71	91	122	180	171	134	100	75	67	76	88
綿花	4	18							3	26	21	10	11	1	
ジュート	99			*				6	5	8			5	37	10
その他農産品	12	4	228	*				278	293	298	350	217	271	196	178
畜産品	13	11	5	2	1	0	1	7	9	8	34	28	37	42	22
水産品	82	94	165					615	887	945	941	807	934	861	1,116
魚類	58	13	36					159	219	289	307	229	291	310	445
エビ	24	76	114					407	560	559	569	529	598	519	623
その他水産物		5	15					49	108	97	65	49	45	32	48
木材	793	1,046	999	931	949	1,241	1,061	1,048	985	853	789	925	803	1,880	1,871
チーク	721	982	740	668	629	741	953	903	855	698	640	727	651	1,423	1,388
堅材	72	64	259	263	320	500	108	145	130	155	149	198	152	457	483
農産品・畜産・水産・木材	2,649	2,277	2,111	1,683	1,984	2,378	3,210	3,991	3,862	3,758	3,654	3,362	4,086	5,804	5,817
鉱産品・宝石	295	188	158	102	135	194	166	207	192	237	223	508	687	415	531
天然ガス											5	31	1,110	4,247	5,919
カーメント		6	8					300	402	436	471	2,722	3,785	2,985	2,976
その他	281	183	685	1,141	1,471	1,656	2,029	546	1,032	2,016	2,403	2,324	3,068	3,680	4,712
合計	3,225	2,654	2,962	2,926	3,590	4,228	5,405	5,044	5,488	6,447	6,756	8,947	12,736	17,131	19,955
シェア (%)															
農産品	54.6	42.4	31.8	25.6	28.8	26.9	39.7	46.0	36.1	30.3	28.0	17.9	18.2	17.6	14.1
コメ	42.0	28.7	5.8	8.6	6.9	6.3	21.6	8.7	2.3	0.6	2.5	0.7	1.6	4.4	3.2
マメ類	4.7	9.0	17.4	14.7	18.6	17.1	14.8	26.9	23.2	21.8	16.8	13.2	13.0	11.1	8.8
メイズ	0.3	0.6	0.4	1.0	0.8	0.7	0.9	0.9	1.9	0.7	1.7	0.6	0.7	0.3	0.7
オイルケーキ	1.4	1.2	0.4	0.3	0.5	0.6	0.2	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ゴム	2.5	2.1	0.1	1.2	2.0	2.2	2.3	3.6	3.1	2.1	1.5	0.8	0.5	0.4	0.4
綿花	0.1	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.3	0.1	0.1	0.0	0.0
ジュート	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1
その他農産品	0.4	0.2	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.5	5.3	4.6	5.2	2.4	2.1	1.1	0.9
畜産品	0.4	0.4	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.5	0.3	0.3	0.2	0.1
水産品	2.5	3.5	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	12.2	16.2	14.7	13.9	9.0	7.3	5.0	5.6
魚類	1.8	0.5	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	4.0	4.5	4.5	2.6	2.3	1.8	2.2
エビ	0.7	2.9	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	10.2	8.7	8.4	5.9	4.7	3.0	3.1
その他水産物	0.0	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	1.5	1.0	0.5	0.4	0.2	0.2
木材	24.6	39.4	33.7	31.8	26.4	29.4	19.6	20.8	17.9	13.2	11.7	10.3	6.3	11.0	9.4
チーク	22.4	37.0	25.0	22.8	17.5	17.5	17.6	17.9	15.6	10.8	9.5	8.1	5.1	8.3	7.0
堅材	2.2	2.4	8.7	9.0	8.9	11.8	2.0	2.9	2.4	2.4	2.2	2.2	1.2	2.7	2.4
農産品・畜産・水産・木材	82.1	85.8	71.3	57.5	55.3	56.2	59.4	79.1	70.4	58.3	54.1	37.6	32.1	33.9	29.2
鉱産品・宝石	9.1	7.1	5.3	3.5	3.8	4.6	3.1	4.1	3.5	3.7	3.3	5.7	5.4	2.4	2.7
天然ガス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	8.7	24.8	29.7
カーメント	0.0	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	7.3	6.8	7.0	30.4	29.7	17.4	14.9
その他	8.7	6.9	23.1	39.0	41.0	39.2	37.5	10.8	18.8	31.3	35.6	26.0	24.1	21.5	23.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(出所) 1981/82-1989/90年度: GUM, *Statistical Yearbook* (1991年版).
 1990/91-1994/95年度: 同上 (1997年版).
 1995/96-2000/01年度: 同上 (2002年版).

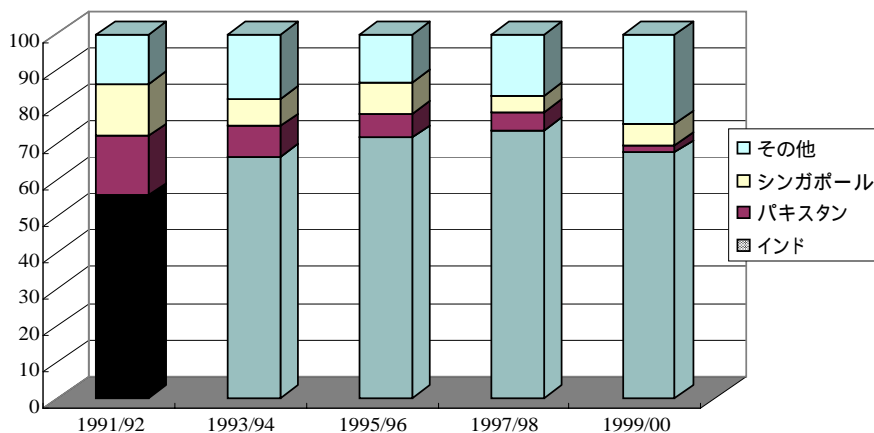
1990年代の輸出動向の中で注目されるのがマメ類輸出の急激な増加である。1990年代にマメ類は農水林産品を合わせた輸出総額の30-40%を占めるにいたっている(図1)。マメ類輸出の急増は、1980年代末の農産物流通自由化によって民間輸出が解禁されたこと、また同時期にマメ類の最大消費国インドの輸入需要が増加したことがその背景にある(岡本2001)。図2にみるように、マメ類輸出の60-70%はインド市場に向かっている。

図1. 農産品総輸出額に占めるシェア



(出所) GUM, Statistical Yearbook (1991,1997,2003年版).

図2. ミャンマー産豆類の輸出相手国シェア (%)



(出所) GUM, Agricultural Statistics (1985-86 to 1995-96年版, 1989-90 to 1999-2000年版).

マメ類に続く形で、1990年代半ばから輸出が伸び始めているのがエビなどの水産物である。特に1990年代後半頃から、国内民間資本が水産物加工業に活発に参入し始めたことで、水産品輸出が一層拡大しつつある。近年は、中国への輸出が急増している（表3）。

表3．水産物輸出相手国

1994/95		1996/97		1998/99		2000/01		2002/03	
シンガポール	40.3	シンガポール	50.8	中国	56.3	中国	66.8	中国	128.6
タイ	36.2	香港	29.5	シンガポール	40.5	シンガポール	27.1	日本	30.9
香港	16.0	マレーシア	25.2	タイ	31.2	日本	24.1	マレーシア	27.1
中国	12.1	日本	20.8	日本	21.1	タイ	22.7	タイ	25.4
日本	8.8	タイ	16.4	香港	19.0	香港	20.5	シンガポール	22.8
マレーシア	2.3	中国	6.6	英国	5.9	マレーシア	14.7	アメリカ	17.7
オーストラリア	1.7	オーストラリア	4.2	マレーシア	5.7	アメリカ	12.9	香港	14.5
イギリス	1.1	イギリス	2.5	オーストラリア	4.0	オーストラリア	6.4	バングラデシュ	10.6
アメリカ	0.5	アメリカ	1.4	カナダ	3.3	イギリス	5.5	イギリス	8.5
インドネシア	0.5	オランダ	1.3	オランダ	3.3	バングラデシュ	3.7	UAE	5.3
10ヶ国合計	119.4		158.6		190.3		204.3		291.4
輸出額総計	120.6		163.1		201.3		218.3		317.4
輸出総額に占めるシェア(%)									
10カ国	99.0		97.3		94.5		93.6		91.8
中国	10.0		4.1		28.0		30.6		40.5
日本	7.3		12.8		10.5		11.0		9.7
シンガポール	33.4		31.1		20.1		12.4		7.2

(出所)Ministry of Livestock and Fisheries, [2005] *Fisheries Statistics (2003-04)*, p.24-33, 36-40.

しかしながら、ミャンマー国民の主糧作物であるコメに関しては、その政治的重要性から強権的な増産政策が続けられる一方で、部分的な輸出自由化すらも見送られ続けた（藤田・岡本 2005，岡本 2005）。その結果、前掲の図（図1）にみるように、1990年代を通じてコメ輸出はひじょうに微々たるものにとどまっている。コメは、主として南アジアやアフリカの低所得国を中心に、少量輸出されるに過ぎない（表4）。

さて、次に、輸入面をみてみよう。表5をみると、総輸入額に占める農産品輸入の比重は市場経済化以後増加している。その主たる原因は食用油、端的にはパーム油の輸入急増にある。食用油はコメに次ぐ国民の食生活に欠かせない品目であり、その安定的供給は重要な政策課題として掲げられてきた。その流れのなかで、パーム油は1990年代初め以来国軍系企業がほぼ独占する形で輸入が開始され、その後飛躍的に輸入量が増加したのである。食用油の国内総供給量に占める輸入パーム油のシェアは、図3にみるとおり、1990年代を通じて非常に大きいものとなっている。

表4 コメ輸出相手国・地域

(千トン)

	1950	1960	1970	1980/ 81	1985/ 86	1986/ 87	1987/ 88	1988/ 89	1989/ 90	1990/ 91	1991/ 92	1992/ 93	1993/ 94	1994/ 95	1995/ 96	1996/ 97	1997/ 98	1998/ 99	1999/ 2000	2000/ 2001	2001/ 02
東南アジア	238	615	211	181	182	183	32	2	28	15	47	4	16	635	261	47	1	66	20	46	367
マレーシア	45	31	46	1	40	5	17	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	48
インドネシア	193	498	80	121	0	0	0	0	0	0	34	0	0	613	169	12		52	12	33	201
シンガポール		86	85	15	0	28	15	2	17	5	4	4	14	22		12	1	14	8	6	94
カンボジア				44	11	20	0	0	11	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フィリピン				0	0		0	0	0	0	2	0	2	0	92	23	0	0	0	0	11
ベトナム				0	131	130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南アジア	625	766	245	103	76	19	26	2	38	66	48	75	49	99	26	20	27	19	23	174	50
スリランカ	416	251	145	91	40	7	3	0	28	56	41	65	35	59	0	0	11	0	0	0	
インド	209	318	94	0	0	0	16	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	6	0	3
モルジブ				12	7	12	7	2	10	10	7	10	10	7	6	20	4	8	0	0	
バングラデシュ				0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	33	20	0	12	11	17	174	47
その他アジア	207	112	35	51	72	87	83	9	39	0	9	0	8	0	18	0	0	1	0	0	18
アフリカ	38	69	61	168	210	179	152	24	51	40	79	114	174	276	23	25	0	31	0	25	0
中東	44	42	8	0	0	14	21	0	5	3	0	6	3	0	0	0	0	0	0	0	367
ヨーロッパ	74	194	63	91	43	85	6	10	5	0	0	0	11	16	0	1	0	3	12	6	57
その他	4			109	20	35	0	0	0	10	0	0	0	15	26	0	0	0	0	0	93
合計	1,230	1,798	623	703	603	602	320	47	166	134	183	199	261	1,041	354	93	28	120	55	251	952
シェア (%)																					
東南アジア	19.3	34.2	33.9	25.7	30.1	30.4	10.0	4.3	16.9	11.2	25.7	2.0	6.1	61.0	73.7	50.5	3.6	55.0	36.4	18.3	38.6
南アジア	50.8	42.6	39.3	14.7	12.6	3.2	8.1	4.3	22.9	49.3	26.2	37.7	18.8	9.5	7.3	21.5	96.4	15.8	41.8	69.3	5.3
その他アジア	16.8	6.2	5.6	7.3	12.1	14.5	25.9	19.1	23.5	0.0	4.9	0.0	3.1	0.0	5.1	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	1.9
アジア	87.0	83.0	78.8	47.7	54.8	48.0	44.1	27.7	63.3	60.4	56.8	39.7	28.0	70.5	86.2	72.0	100.0	71.7	78.2	87.6	45.7
アフリカ	3.1	3.8	9.8	23.9	34.8	29.7	47.5	51.1	30.7	29.9	43.2	57.3	66.7	26.5	6.5	26.9	0.0	25.8	0.0	10.0	0.0
中東	3.6	2.3	1.3	0.0	0.0	2.3	6.6	0.0	3.0	2.2	0.0	3.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.6
ヨーロッパ	6.0	10.8	10.1	12.9	7.1	14.1	1.9	21.3	3.0	0.0	0.0	0.0	4.2	1.5	0.0	1.1	0.0	2.5	21.8	2.4	6.0
その他	0.3	0.0	0.0	15.5	3.3	5.8	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	1.4	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.8

(注1) 1967年以降にはバングラデシュの輸入があると考えられるが、その他アジアの中に組み込まれている。

(出所) 1950-1979/80年: Saito and Kioung, [1999] *Statistics on the Burmese Economy*.1981/82-1989/90年度: GUM, *Statistical Yearbook* (1991年版).

1990/91-1994/95年度: 同上 (1997年版).

1980/81,1995/96-2001/02年度: 同上 (2002年版).

表5 輸入額の変化

(百万チャット)

	1980/81	1985/86	1988/89	1989/90	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98	1998/99	1999/2000	2000/01	2001/02
小麦	29.04	0.02	0.01	0.18	7.00	36.77	3.90	4.46	112.55	91.67	55.13	55.32	85.93	136.20	131.56	112.18
コンデンスミルク	20.0	1.0	6.2	10.5	46.5	17.6	33.0	66.5	93.4	118.9	32.2	69.0	130.0	170.2	143.1	107.6
ミルク、乳製品	0.1	0.2	0.0	10.8	16.5	19.7	15.5	33.5	29.1	15.7	35.9	59.5	29.5	30.3	41.4	34.6
砂糖	0.5	0.01	*	0.0	0.1	0.1	*	*	*	21.4	16.6	1.0	1.4	36.0	0.03	0.01
調味料	0.0	0.1	0.0	1.1	0.4	0.6	87.4	154.0	159.7	159.7	69.4	253.6	23.1	0.1	0.3	0.3
茶	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	0.1	0.5	0.3	0.1	0.3	0.5	0.2	0.3	0.5	0.3	0.3
香辛料	1.2	1.2	0.3	0.3	9.1	26.8	78.2	23.0	10.3	7.7	19.0	15.5	36.1	99.8	49.0	33.2
食用油	76.1	35.5	29.6	65.0	406.1	350.1	321.2	509.1	805.5	1,183.6	398.2	805.5	670.0	477.6	475.4	550.9
動物油脂	10.3	0.0		0.0	0.0	0.2	1.1	0.7	0.7	1.7	1.1	1.4	7.5	5.7	20.8	2.2
上記合計	137.3	38.0	36.1	87.9	487.9	452.0	540.8	791.6	1,211.2	1,600.6	628.1	1,261.0	983.9	956.3	861.9	841.4
輸入額合計	4,635.0	4,802.0	3,443.0	3,395.0	5,522.8	5,336.7	5,365.3	7,923.3	8,332.3	10,301.6	11,778.8	14,366.1	16,871.7	16,264.8	15,073.1	18,377.7
シェア (%)																
小麦	0.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.7	0.1	0.1	1.4	0.9	0.5	0.4	0.5	0.8	0.9	0.6
コンデンスミルク	0.4	0.0	0.2	0.3	0.8	0.3	0.6	0.8	1.1	1.2	0.3	0.5	0.8	1.0	0.9	0.6
ミルク、乳製品	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.3	0.2	0.3	0.4	0.2	0.2	0.3	0.2
砂糖	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
調味料	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	1.9	1.9	1.6	0.6	1.8	0.1	0.0	0.0	0.0
茶	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
香辛料	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.5	1.5	0.3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.6	0.3	0.2
食用油	1.6	0.7	0.9	1.9	7.4	6.6	6.0	6.4	9.7	11.5	3.4	5.6	4.0	2.9	3.2	3.0
動物油脂	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
全輸入額に占めるシェア (%)	3.0	0.8	1.0	2.6	8.8	8.5	10.1	10.0	14.5	15.5	5.3	8.8	5.8	5.9	5.7	4.6

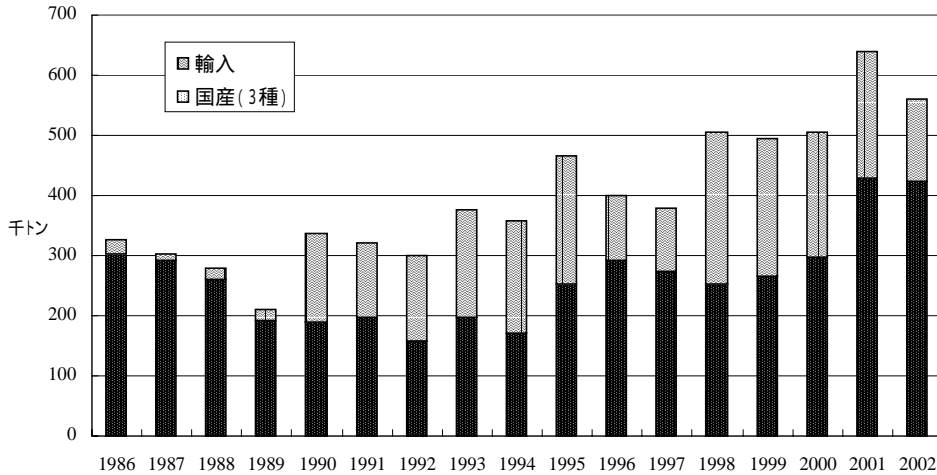
(注) *: 1万チャット以下。

(出所) 1981/82-1989/90年度: GUM, *Statistical Yearbook* (1991年版)。

1990/91-1994/95年度: 同上 (1997年版)。

1995/96-2000/01年度: 同上 (2002年版)。

図3．食料油の供給



(注) 国産はゴマ、ラッカセイ、ヒマワリの3種類の油の合計。
 (出所) FAOSTAT.

各農産物の国際市場との連関の程度の相違は、国内市場価格の動向にも現れている。(表6)にみるように、輸出市場向けに生産されるマメ類、またエビなどの価格は、国内の物価水準(ここでは消費者物価指数を示した)をはるかに上回るペースで価格が上昇した。これは、流通自由化を受けて、マメ類の国内価格がきわめて国際価格に近い水準で、かつ高い相関を保ちながら推移した(図4)からに他ならない。

対して、輸出が厳しく制限されているコメの国内価格はどうか。社会主義期に比すればコメの内外価格差は格段に縮小したとはいえ、実に国際価格の4 - 6割も低い水準で推移している(図5)。比較的高い相関係数の値に示されるように、国内米価の変動そのものは国際価格の動きにも影響を受けているようである。しかし、その価格水準は政策的に著しく低く抑制され続けたのである。

また、市場経済化以後、パーム油輸入に競合する形となった油糧種子すなわちゴマ、ラッカセイなどの価格も伸び悩んだ。図6に示した通り、ゴマ、ラッカセイ油の価格は大量に輸入されるパーム油の低価格に引きつけられるような形で低下し、それにあわせて油糧種子価格全般は低迷した(表6)。

表6．主要農産物・水産・畜産品の価格変化

(1985/86=100)

商品	1987	1989	1991	1993	1995	1997	1999	2001
コメ(エマタ種)	112	339	306	864	1132	1389	2817	2489
キマメ	100	895	2308	2969	6459	7186	15787	13614
ケツルアズキ	100	579	1480	1065	3578	3434	7060	13227
エビ	158	193	364	539	1121	2444	3926	3943
ゴマ油	127	143	232	328	585	912	1772	1904
ラッカセイ油	130	144	228	325	552	875	1620	1795
パーム油	100	100	174	250	404	650	1185	1373
ゴマ	121	145	260	337	657	1010	1499	2677
ラッカセイ	112	148	198	382	661	1075	1848	1893
トウガラシ	202	159	444	598	1072	1434	2854	4243
タマネギ	131	119	340	612	514	1296	1278	3608
ニンニク	228	143	594	385	779	1098	2214	2772
ジャガイモ	163	255	466	739	1017	1396	2460	2730
鮮魚平均	137	173	304	459	787	1179	1543	2624
鶏肉	135	195	348	645	966	1303	1702	2709
豚肉	127	162	331	487	704	1064	1675	2826
牛肉	221	177	363	478	615	696	1603	2063
粗糖	183	198	395	432	930	1003	1638	3163
CPI	127	192	302	493	736	1182	1825	2422

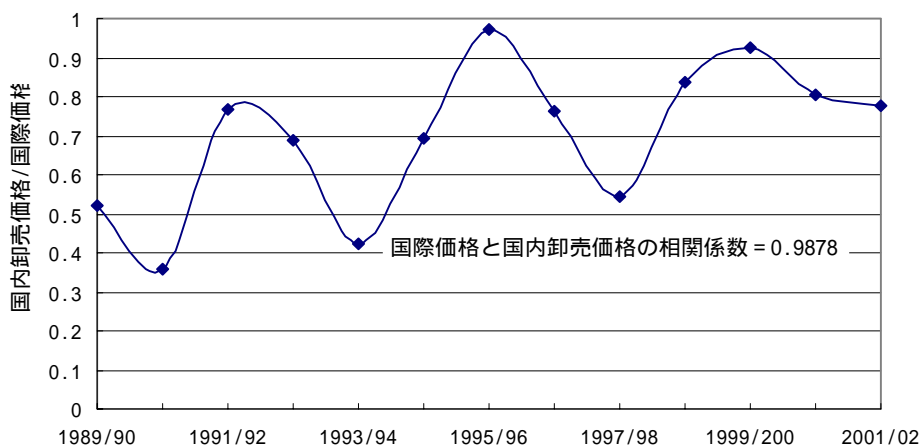
(注) ヤンゴンにおける価格。米は小売価格。その他は卸売り価格から計算。

パーム油も小売価格だが、1989年までは統制価格。

キマメ、ケツルアズキは国内流通はほとんどなかったことから統計価格ベースで計算。

(出所) GUM, *Statistical Yearbook* (1993,1995,2001,2002年度版)。

図4．マメ類の内外価格差(ケツルアズキ)



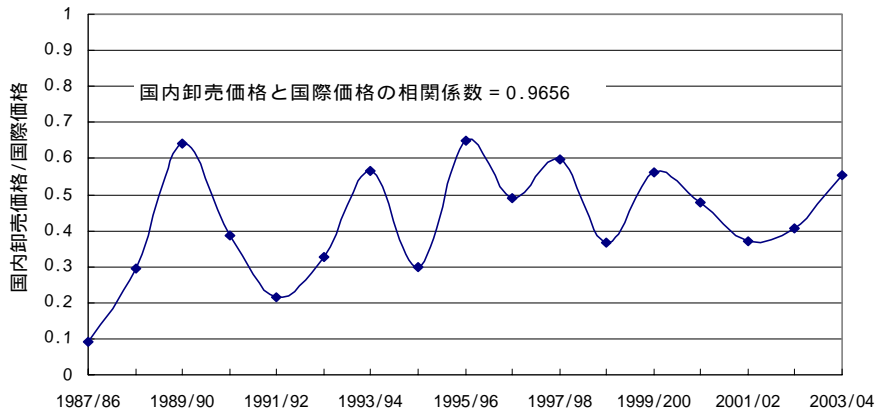
(出所) 国際価格 Government of India, [2003] *Agricultural Statistics at a Glance*.

国内卸価格: GUM, *Statistical Yearbook* (1997,2002年度版)。

市場為替レート 1988/89-1996/97年度: Asia Development Bank, [2001] *Country Economic Report Myanmar, Vol.2: Statistical Appendixes*. 1997/98-2002/03年度: 東京三菱銀行ヤンゴン駐在事務所。

2003/04年度: 筆者調査。

図5 . コメの内外価格差



(注) 国内卸売米価はエマタ種 35%。2003/04 年度の国内卸米価は 2003 年 6 月の価格。

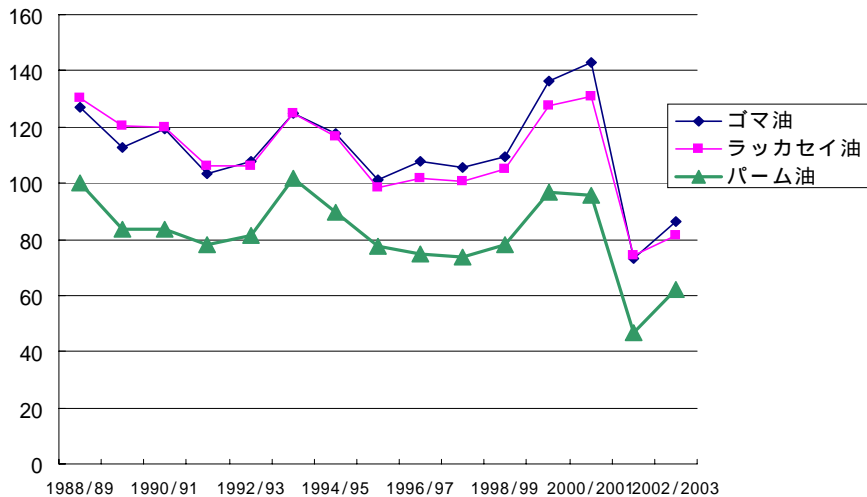
(出所) 国際米価：IMF, *International Financial Statistics*.

国内卸売米価：GUM, *Statistical Yearbook* (1997, 2000 年版), MOAI, *MIS Price Bulletin* (July 2003).

市場為替レート：1988/89-1996/97 年度 Asian Development Bank [2001] *Country Economic Report Myanmar, Vol.2: Statistical Appendixes*.

1997/98-2002/03 年度：東京三菱銀行ヤンゴン駐在事務所。2003/04 年度筆者調査。

図6 . 食用油価格指数の変化(1986=100)



(注) CPI(1986=100)でデフレート。

(出所) GUM, *Statistical Yearbook* (1993,1995,2001,2002 年度版)。

こうした価格の推移は、作付面積の変化にどのように現れているだろうか。主要作物の作付面積を示した表7を見てみよう。

表7 主要農作物の作付面積の変化

(千エーカー)

年	コメ	マメ類	ゴマ	ラッカ セイ	野菜	トウガ ラシ	タマ ネギ	ニン ニク	綿花	サトウ キビ	ゴム	のべ作付 面積
1960/61	10,418	1,416	1,467	1,187					370	72	139	17,181
1970/71	12,294	1,577	2,510	1,735	186	158	47	18	466	108	217	22,338
1980/81	12,668	1,995	3,231	1,271	301	189	47	21	546	118	200	24,805
1987/88	11,531	2,022	2,933	1,327	391	161	45	26	425	133	193	23,870
1988/89	11,807	1,803	2,994	1,355	342	200	64	27	443	123	192	23,802
1989/90	12,057	2,116	3,158	1,380	342	205	58	27	379	113	190	24,344
1990/91	12,220	2,471	3,271	1,369	343	187	57	26	386	118	191	25,024
1991/92	11,935	3,126	3,184	1,261	391	221	60	28	424	136	188	25,426
1992/93	12,684	3,700	3,379	1,220	389	242	65	33	416	187	193	27,200
1993/94	14,021	3,753	3,211	1,204	391	217	57	30	356	154	205	28,134
1994/95	14,643	4,117	3,288	1,252	416	172	62	28	505	130	220	30,005
1995/96	15,166	4,808	3,153	1,303	445	158	66	29	937	165	259	31,837
1996/97	14,518	4,584	2,830	1,184	463	203	60	29	824	204	294	30,422
1997/98	14,294	4,967	2,430	1,111	514	190	69	35	659	266	333	30,336
1998/99	14,230	5,729	2,738	1,241	524	169	115	34	804	311	369	32,882
1999/2000	15,528	6,209	3,173	1,400	657	220	146	41	842	333	419	36,582
2000/2001	15,713	6,725	3,308	1,458	732	249	145	46	801	343	446	38,177
2001/2002	15,940	7,372	3,210	1,405	740	280	139	47	730	402	460	39,153
2002/2003	16,032	7,556	3,325	1,436	809	293	136	51	747		457	39,896
シェア (%)												
1960/61	60.6	8.2	8.5	6.9					2.2	0.4	0.8	
1970/71	55.0	7.1	11.2	7.8	0.8	0.7	0.2	0.1	2.1	0.5	1.0	
1980/81	51.1	8.0	13.0	5.1	1.2	0.8	0.2	0.1	2.2	0.5	0.8	
1987/88	48.3	8.5	12.3	5.6	1.6	0.7	0.2	0.1	1.8	0.6	0.8	
1988/89	49.6	7.6	12.6	5.7	1.4	0.8	0.3	0.1	1.9	0.5	0.8	
1989/90	49.5	8.7	13.0	5.7	1.4	0.8	0.2	0.1	1.6	0.5	0.8	
1990/91	48.8	9.9	13.1	5.5	1.4	0.7	0.2	0.1	1.5	0.5	0.8	
1991/92	46.9	12.3	12.5	5.0	1.5	0.9	0.2	0.1	1.7	0.5	0.7	
1992/93	46.6	13.6	12.4	4.5	1.4	0.9	0.2	0.1	1.5	0.7	0.7	
1993/94	49.8	13.3	11.4	4.3	1.4	0.8	0.2	0.1	1.3	0.5	0.7	
1994/95	48.8	13.7	11.0	4.2	1.4	0.6	0.2	0.1	1.7	0.4	0.7	
1995/96	47.6	15.1	9.9	4.1	1.4	0.5	0.2	0.1	2.9	0.5	0.8	
1996/97	47.7	15.1	9.3	3.9	1.5	0.7	0.2	0.1	2.7	0.7	1.0	
1997/98	47.1	16.4	8.0	3.7	1.7	0.6	0.2	0.1	2.2	0.9	1.1	
1998/99	43.3	17.4	8.3	3.8	1.6	0.5	0.3	0.1	2.4	0.9	1.1	
1999/2000	42.4	17.0	8.7	3.8	1.8	0.6	0.4	0.1	2.3	0.9	1.1	
2000/2001	41.2	17.6	8.7	3.8	1.9	0.7	0.4	0.1	2.1	0.9	1.2	
2001/2002	40.7	18.8	8.2	3.6	1.9	0.7	0.4	0.1	1.9	1.0	1.2	

(出所) 1960/61年度: GSRUB, *Report to the Pyithu Hluttaw on the Financial,**Economic and Social Conditions of the Socialist Republic of the Union of Burma* (1967/68年版).1962/63-1993/94年度: Myanmar Agriculture Service, [1994] *Crop Production Situation (Union)*.1994/95-1999/2000年度: GUM, *Agricultural Statistics (1989-90 to 1999-2000 年版)*.2000/01-2001/02年度: GUM, *Statistical Yearbook (2002年版)*.

2002/03年度: 同上 (2003年版).

まず、マメ類作付面積の急激な増加が見て取れる。国際市場とのリンクが強まったことで、マメ類生産がきわめて魅力的なものとなり、農家が乾期の遊休農地を利用したり(下ミャンマー) 作付パターンを変えたりしながら(上ミャンマー) 積極的に栽培を拡大した結果である(岡本 2003)。

一方、コメは、統計数値を見る限り、全作付面積に大きな割合を占めるだけでなく、1990年代も順調に作付面積が増加している。確かに、80年代から90年代初めまでは、市場経済化後の著しい価格の上昇が農家に増産インセンティブを与えた(高橋 2000)。社会主義期を通じて稲作農家を苦しめてきたコメの供出制度が緩和されたことも大きい(岡本 2005)。実際に市場流通量を推計すると(表8) 市場経済化後にその生産量に占める市場流通の比率は急激に上昇していることがわかる(ミャンマーにおいては、米作農家は自家消費用のコメを確保した上で販売するのが一般的であり、その前提に基づいた推計である)。しかしながら、こうした価格・市場インセンティブ効果は長くは続かなかった。さらなるコメの増産を目指した政府が乾期米増産政策(1992/93年度~)をスタートさせ、その一方で輸出を開放しなかったことで、コメの国内市場は飽和気味となり、1990年代後半以降のコメ価格の相対的な伸び悩みをもたらした(特にマメ類などと比して)。それが、もっとも顕著な形で現れたのが2000-2001年にかけての米価暴落であり、稲作農家への打撃は大きかった(藤田 2003, 藤田・岡本 2005)。こうした事実を考慮すると、1990年代後半以降も作付面積は統計上増加しているが、政府機関が政治的配慮から作付面積を過大推計している可能性は否定できない。

一方、パーム油輸入と競合する形となった油糧種子、ゴマ、ラッカセイの作付面積はほぼ横ばいである(表7)。ゴマは国内向けの搾油用だけでなく、種子の形で輸出されることもあるが、1990年代後半以降、国内供給不安を懸念した政府がゴマ輸出を統制し、輸出用の伸びが抑えられたことも影響している。

国際市場との関連は薄いですが、作付面積の拡大傾向にあるものとしては、野菜類・トウガラシ・タマネギ・ニンニクなどがあげられる(表7)。また、いわゆる工業作物(綿花、サトウキビ、ゴム)も横ばいないし微増傾向にある。ただし、野菜類に関しては、市場経済化によって国内需要が一定の高まりをみせたこと(また、後に見るように一定の広域流通を可能とするインフラ整備が実施されたこと)が背景にあるのに対し、工業作物に関しては、国内市場の拡大と同時に、一部地域においては国有企業の原料確保を目的に政府が農家に作付けを強いる政策を採用したことも関連していると考えられる。

表8 コメ 市場流通量推計(籾米ベース)

(千トン)

	A	B				C=A-B			D			
	生産量	控除量				市場流通量			輸出			
		供出量 (比率) (%)	種子	ロス	自家消費	(比率) (%)			精米	籾米換算	供出量に占める割合(%)	生産量に占める割合(%)
		b	b/A				C/A		d	d/b	d/A	
1971/72	8,189	2,204	26.9	514	514	7,528	(1,585)	(31.9)	831	1,240	56.3	15.1
1981/82	14,170	4,355	30.7	527	527	7,402	1,358	9.6	701	1,046	24.0	7.4
1982/83	14,397	4,111	28.6	504	504	7,395	1,882	13.1	711	1,061	25.8	7.4
1983/84	14,312	4,145	29.0	499	499	7,413	1,756	12.3	906	1,352	32.6	9.4
1984/85	14,279	3,731	26.1	508	508	7,406	2,126	14.9	634	946	25.4	6.6
1985/86	14,341	4,156	29.0	506	506	7,354	1,818	12.7	594	887	21.3	6.2
1986/87	14,150	4,263	30.1	500	500	7,363	1,523	10.8	604	901	21.1	6.4
1987/88	13,658	564	4.1	482	482	7,402	4,728	34.6	320	478	84.7	3.5
1988/89	13,186	1,672	12.7	494	494	7,447	3,080	23.4	48	72	4.3	0.5
1989/90	13,826	1,482	10.7	504	504	7,551	3,785	27.4	169	252	17.0	1.8
1990/91	13,748	1,851	13.5	511	511	7,579	3,296	24.0	134	200	10.8	1.5
1991/92	12,993	2,095	16.1	499	499	7,589	2,312	17.8	183	273	13.0	2.1
1992/93	14,603	2,222	15.2	530	530	7,648	3,672	25.1	199	297	13.4	2.0
1993/94	15,500	1,939	12.5	587	587	7,694	4,693	30.3	261	390	20.1	2.5
1994/95	17,908	2,034	11.4	613	613	7,737	6,911	38.6	1,041	1,554	76.4	8.7
1995/96	17,669	1,934	10.9	634	634	7,772	6,695	37.9	354	528	27.3	3.0
1996/97	17,397	1,522	8.7	607	607	7,810	6,852	39.4	93	139	9.1	0.8
1997/98	16,391	1,601	9.8	597	597	7,829	5,765	35.2	28	42	2.6	0.3
1998/99	16,808	2,200	13.1	607	607	7,869	5,524	32.9	120	179	8.1	1.1
1999/2000	19,808	2,212	11.0	649	649	7,908	8,390	42.4	69	103	4.7	0.5
2000/2001	20,987	2,126	10.0	657	657	7,948	9,600	45.7	251	375	17.6	1.8
2001/02	21,569	2,119	10.0	666	666	7,987	10,130	47.0	939	1,401	66.1	6.5

注1) 種子、ロスは1エーカー2バスケット。

注2) 自家消費は、農家世帯数×5.5人(1999年サーベイ全国平均世帯規模)×15バスケットで計算。

ただし、1998/99 - 2000/01年度は農家世帯数のデータがないため、それまでの世帯増加率の平均を用いて推計。

注5) 1978/79年度の自家消費量、農家戸数不明のため、暫定的に1979/80年度と同量を計上。減少している可能性もあるため。

注3) 輸出品は白米と破碎米合計。

注4) 輸出品の籾米換算の比率は67%を仮定。

(出所) 自家消費量推計のための農家戸数 GUM, *Review of Financial, Economic and Social Conditions* (1989-1998年版)。GSRUB, *Report to the Pyithu Hluttaw on the Financial, Economic and Social Conditions of the Socialist Republic of the Union of Burma* (1974/75, 1977/78, 1980/81, 1983/84, 1984/85, 1987/88年版)。供出量 GUM, *Review of Financial, Economic and Social Conditions*, 1989-1998年版およびMyanmar Agricultural Produce Trading 内部資料。1979/80 ~ 1994/95年度までは協同組合の買上も含む。GSRUB, *Report to the Pyithu Hluttaw on the Financial, Economic and Social Conditions of Republic of the Union of Burma* (1974/75, 1977/78, 1980/81, 1983/84, 1984/85, 1987/88年版)。生産量、耕作面積 GUM, *Agricultural Statistics* (1998/99 to 2000/01年度版)、GUM, *Statistical Yearbook* (2002年版)。輸出 1971-78 GSRUB, [1984] *Agricultural Statistics for 1978-79, 1979-80 and 1980-81*, p.295-293。1979/80, 1980/81 GSRUB, *Selected Bi-Monthly Economic Indicators* (January and February 1982号), p.13。上記以外、GUM, *Statistical Yearbook* (1991, 1998, 2002年版)。

2. 投入財市場

本節では投入財として種子および肥料に関して検討する。ここでは議論を稲作に限定して進める。表9に高収量品種作付面積の推移を示したが、1977/78年度から1981/82年度のわずか5年間で全作付面積に占めるシェアは約10%から50%にまで急上昇している。それを可能にした要因は、高収量品種普及の大きな前提である化学肥料が、主として日本の援助によって大量に輸入され（表10）、農家に補助金価格で配給されたことがある。とはいえ、高収量品種作付面積の拡大は、早くも1980年代半確保ができなくなったことや適地の枯渇などが指摘されている（高橋1992）。その後、高収量品種面積は、データの得られる期間に限れば市場経済化後もほぼ変化がないまま推移している。

表9. 米の高収量品種の作付面積の変化

	作付面積（千ヘクタール）		高収量品種面積シェア(%)
	高収量品種	総面積	
1967/68	3	4,706	0.1
1968/69	167	4,763	3.5
1969/70	134	4,672	2.9
1970/71	183	4,809	3.8
1971/72	178	4,764	3.7
1972/73	192	4,528	4.2
1973/74	238	4,880	4.9
1974/75	316	4,884	6.5
1975/76	433	5,030	8.6
1976/77	463	4,912	9.4
1977/78	522	4,864	10.7
1978/79	823	5,011	16.4
1979/80	1,342	4,442	30.2
1980/81	2,127	4,801	44.3
1981/82	2,461	4,809	51.2
1982/83	2,548	4,562	55.9
1983/84	3,566	4,659	76.5
1984/85	2,568	4,601	55.8
1985/86	2,362	4,661	50.7
1986/87	2,389	4,666	51.2
1987/88	2,393	4,483	53.4
1988/89	2,474	4,527	54.6
1989/90	2,457	4,732	51.9
1990/91	2,440	4,760	51.3
1991/92	2,451	4,575	53.6
1992/93	3,084	5,056	61.0
1993/94	3,366	5,487	61.3

(出所) IRRI <http://www.irri.org/science/ricestat/index.asp>

表 10. 化学肥料供給の変化

(千トン)

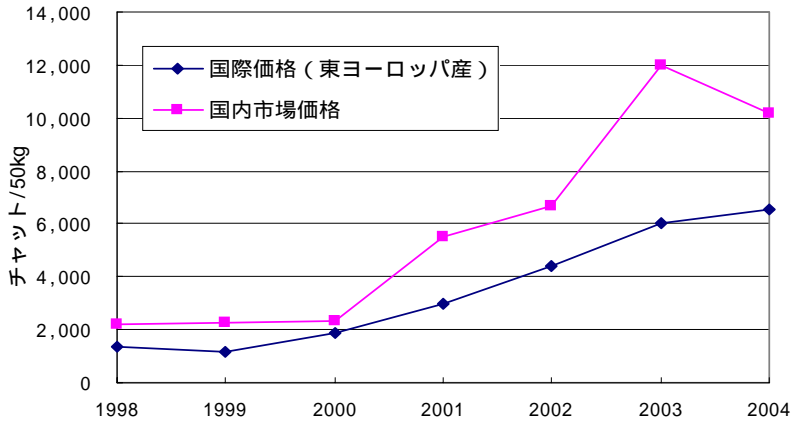
	国内生産	輸入					総供給量
	(尿素肥料)	合計	尿素肥料	磷酸肥料	カリ肥料	複合肥料	
1980/81	133	162	81	63	9	9	295
1981/82	129	232	101	106	25	-	361
1982/83	110	283	172	88	24	-	393
1983/84	117	172	94	62	17	-	289
1984/85	124	284	129	130	25	-	408
1985/86	281	177	48	99	30	-	458
1986/87	305	113	-	95	18	-	418
1987/88	296	52	2	50	-	-	348
1988/89	214	24	-	24	-	-	238
1989/90	192	35	-	33	3	-	227
1990/91	133	58	10	20	6	22	191
1991/92	105	44	44	-	-	-	149
1992/93	117	82	24	47	11	-	199
1993/94	174	194	162	31	-	-	367
1994/95	146	127	56	71	-	-	273
1995/96	143	301	75	103	73	50	444
1996/97	117	135	84	52	-	-	252
1997/98	123	281	250	31	-	-	404
1998/99	131	32	30	-	-	2	163
1999/2000	139	271	266	-	-	5	410
2000/2001	160	211	155	21	11	24	371
2001/2002	39	100	75	24	-	1	139

(出所) 生産量 GUM, *Statistical Yearbook* (1995,1997,2002 年度版).輸入量 1980/81-1984/85 年度: GSRUB, *Report to the Pyithu Hluttaw on the Financial, Economic and Social Conditions of the Socialist Republic of the Union of Burma* (1985/86 年版).1985/86-1987/88 年度: GUM, *Review of Financial, Economic and Social Conditions* (1990/91 年版).1988/89-1997/88 年度: Ministry of Agriculture and Irrigation [2000] *The Long Term Agricultural Plan:2000/01-2030/31*.

1998/99-2001/02 年度: Myanma Agriculture Service 内部資料.

上述のコメの種籾は、市場経済化後も市場で購入されることは希で、政府機関の配給種子、もしくは農家の自家採取種子を使用するケースが圧倒的である。その意味では、市場との接点はまだ薄いといえる。それに比して、化学肥料は、その市場動向が農家経営に大きく影響を及ぼすものとなっている。そしてそれは、補助価格での配給が規模縮小、さらには廃止に向かった 1990 年代半ばからより顕著な形で現れるようになった。重要な点は、市場経済化以降、国内生産が困難なことに加え、化学肥料の輸入がほぼ純商業ベースで行われることから、化学肥料の供給は外貨制約に影響される上に、国内価格が国際価格をそのまま反映するものになっているということである(図 10)。ただし、2000 年以降は、国内価格が国際価格を大きく上回るようになっている。その明確な理由はわからないが、化学肥料の調達に農家に大きな負担を強いるものとなっていることは確かである。

図 10. 国際・国内尿素肥料価格の比較



(出所) 国内価格 1998, 1999 年 筆者調査.

2000-2004 年 Ministry of Agriculture and Irrigation, Marketing Information Service, *Monthly Price Bulletin* (各月版).

国際価格 GADINAP (www.fadinap.org) を市場為替レートで換算.

市場為替レート 1998-2002 年: 東京三菱銀行ヤンゴン駐在事務所.

2003-2004 年: 筆者調査.

表 11. 米肥比較比 (尿素肥料)

年	公定コメ価格/公定肥料価格	市場コメ価格/市場肥料価格
1986	1.3	-
1994	0.6	-
2000	-	0.7
2001	0.3	0.3
2003	0.1	0.3
2005	-	0.2

(出所) 1986, 1994 年は高橋調査(2000:40).

2000-2003 年 初価格は筆者調査.

肥料価格は Marketing Information Service, *Monthly Price Bulletin*(各月版).

2005 年は肥料価格、籾米価格とも筆者調査.

化学肥料の国内価格上昇の影響は、米肥価格比 (表 11) に端的に表れている。米肥価格比とは肥料 1 キログラムで何キロのコメが購入できるかを示したものであるが、社会主義期末期の 1986 年から一貫して減少傾向にあったものの、2000 年以降著しく低い数値にまで落ち込んでいることがわかる。これは、既述したように、輸出市場から基本的には閉ざされているコメが国際価格とは乖離した低い水準で推移しているのに対し、輸入に依存する化学肥料は国際価格を反映した価格にならざるを得ないことから生じている。すなわち、投入財のみが国際市場との深くリンクしていることが米作に深刻な影響を与えているのである。同様の投入物・生産物間の価格のひずみは、乾期米栽培で使用されるポンプ灌漑用のディーゼル油のケースにも見られている (藤田 2003)。

3. 資本市場

農家経営が次第に市場向け生産や投入財の市場調達に向かうにつれ、資本をいかに調達するか、という点も大きな問題となる。表 12 はミャンマーにおける政府系金融機関（ミャンマー農業開発銀行）による融資額の推移を示したものである。1990 年代半ばに、同銀行の所轄官庁が財政歳入省から農業灌漑省に移管した際、総融資額が引き上げられた形跡がある。にもかかわらず、単位面積当たりの供与額の変化を消費者物価指数の変化と比較すると、実質的な供与額は著しく減少していることがわかる。資金不足に悩む農家の多くは、しばしば高い利率を伴うインフォーマルな農村内金融に依存しなければならぬのである。

表 12. 農業信用額の変化

年度	作物信用(百万チャット)	中期信用(百万チャット)	総作付面積(千エーカー)	単位面積当たり信用額(1986=100)	消費者物価指数(1986=100)
1980/81	826	10	24,805	62.5	74.1
1981/82	1,176	10	25,123	87.8	74.3
1982/83	1,210	27	24,489	92.7	77.4
1983/84	1,191	15	25,100	89.0	81.8
1984/85	1,198	27	25,984	86.4	85.7
1985/86	1,219	20	25,662	89.1	91.6
1986/87	1,309	25	24,547	100.0	100.0
1987/88	1,312	27	23,870	103.1	123.9
1988/89	1,287	30	23,802	101.4	155.0
1989/90	1,617	56	24,344	124.5	191.7
1990/91	1,524	109	25,024	114.2	233.7
1991/92	1,533	154	25,426	113.1	301.8
1992/93	1,759	216	27,200	121.2	369.1
1993/94	2,610	202	28,134	173.9	493.0
1994/95	2,781	286	30,005	173.8	603.7
1995/96	9,014	466	31,837	530.9	735.5
1996/97	9,920	1,416	30,422	611.4	882.8
1997/98	10,245	15	30,336	633.3	1182.1
1998/99	10,359	105	32,882	590.7	1762.2
1999/2000	11,186	80	36,582	573.4	1778.4
2000/2001	12,124	38	38,177	595.5	1747.8
2001/2002	12,741	178	39,153	610.2	2350.7

(出所) 信用額 GUM, *Statistical Yearbook* (1991, 1997, 2002 年版).

総作付面積: MAS [1994] *Crop Production Situation* (Union).

消費者物価指数: GUM, *Monthly Economic Indicators* (各月版).

表13 外国投資額・件数の変化

部門	投資認可額 (百万チャット)													
	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98	1998/99	1999/200	2000/2001	2001/02	2002/03	2003/04	2004/05
農業		35				36	41			120		232		
水産業		72	63	1,049	160	105	35	28	20			2,168		
鉱業		211	127	3	1,101	1,071	20	29	96	7		3,425	3	
石油・ガス		281	127	6,237	89	4,174	1,033		32	285	20	14,418	1	5
製造業	101	148	274	660	207	5,750	2,300	285	111	466	95	11,132	54	
輸送		6		8	653	289	638			47		1,641	3	4
ホテル・観光		29	1,955	528	475	743	1,994	9	93	32		7,297	30	
不動産					1,496	3,777	733			168		6,175		4
工業団地					120	1,807						1,927		
建設						104				3,557		3,661		
その他					20	79	22			60		181		
合計	101	781	2,546	8,484	4,321	17,935	6,815	352	351	4,742	114	52,256	91	12
農業のシェア(%)		4.5	0.0	0.0	3.7	0.2	0.6	0.0	0.0	2.5	0.0	0.4	0.0	0.0
水産業のシェア(%)		9.2	2.5	12.4	25.5	0.6	0.5	8.0	5.6	0.0	0.0	4.1	0.0	0.0

部門	投資件数													
	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98	1998/99	1999/200	2000/2001	2001/02	2002/03	2003/04	2004/05
農業		1				1	1			1		4		
水産業		4	2	3	2	2	1	1	1	2		20		
鉱業		4	2	1	15	15	1	4	2	2		51	1	
石油・ガス		7	2	3	1	10	12		1	4	1	52	1	3
製造業	4	4	9	20	4	29	31	5	8	17	6	149	3	
輸送		1		2	4	3	3			1		14	1	1
ホテル・観光		2	12	7	5	5	1		2	1		43	2	
不動産					6	8	4					18		1
工業団地					1	2						3		
建設						1				1		2		
その他					1	2	2			1		6		
合計	4	23	27	36	39	78	56	10	14	28	7	362	8	5
農業のシェア(%)	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	1.3	1.8	0.0	0.0	3.6	0.0	1.1	0.0	0.0
水産業のシェア(%)	0.0	17.4	7.4	8.3	5.1	2.6	1.8	10.0	7.1	0.0	0.0	5.5	0.0	0.0

(出所) GUM, Statistical Yearbook (1997,2003年版)。

それでは、民間部門を通じた農村部への資金環流は見られるであろうか。直接的なデータが得られないので、一つの手がかりとして外国資本による直接投資の状況をみてみよう（表 13）。まず指摘できるのは、ミャンマーに対する外国直接投資そのものが非常に低調であるということである。特にアジア経済危機以後は惨憺たる状況である。そのなかでも、投資対象は石油・天然ガス開発ないしはホテル・観光業にかぎられ、農水産業のシェアは微々たるものに過ぎない。データの裏付けは示せないが、筆者の調査した範囲内では、農水産品加工業への外国資本の参入もごく限られている状況にある。

4. 労働市場

次に労働市場の状況を検討する（表 14）。市場経済化前後で農業部門への就業者比率は驚くべきほど変化していない。就業者別人口統計は 1997/98 年度までしか発表されていないため、近年の状況は不明であるが、経済全体の動向から判断するならば大きな変化はないと見てよからう。

表 14. 就業人口の変化

(千人)	1971/72	1975/76	1980/81	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98
農業	7,393	7,972	8,682	10,316	10,521	10,780	10,972	11,115	11,272	11,381	11,507
畜産・水産	148	158	181	365	373	380	390	388	388	391	397
林業	123	153	171	186	182	187	189	186	188	188	189
鉱業	39	67	69	79	79	83	87	105	116	132	121
製造業	776	872	1,058	1,132	1,124	1,195	1,250	1,410	1,481	1,573	1,666
電力	20	14	16	17	17	17	17	18	19	21	22
建設	194	176	201	188	283	288	292	327	354	378	400
運輸・通信	382	418	449	388	394	412	420	431	441	470	495
社会福祉	142	210	275	558	507	525	531	548	563	577	597
行政	346	341	537	647	698	713	733	739	776	835	888
商業	1,010	1,061	1,286	1,396	1,355	1,407	1,450	1,663	1,715	1,746	1,781
その他	634	536	590	465	474	482	486	300	274	272	270
合計	11,207	11,933	13,515	15,737	16,007	16,469	16,817	17,230	17,587	17,964	18,333
(%)	1971/72	1975/76	1980/81	1990/91	1991/92	1992/93	1993/94	1994/95	1995/96	1996/97	1997/98
農業	66.0	66.8	64.2	65.6	65.7	65.5	65.2	64.5	64.1	63.4	62.8
畜産・水産	1.3	1.3	1.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2
林業	1.1	1.3	1.3	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0
鉱業	0.3	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.6	0.7	0.7	0.7
製造業	6.9	7.3	7.8	7.2	7.0	7.3	7.4	8.2	8.4	8.8	9.1
電力	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
建設	1.7	1.5	1.5	1.2	1.8	1.7	1.7	1.9	2.0	2.1	2.2
運輸・通信	3.4	3.5	3.3	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.6	2.7
社会福祉	1.3	1.8	2.0	3.5	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.3
行政	3.1	2.9	4.0	4.1	4.4	4.3	4.4	4.3	4.4	4.6	4.8
商業	9.0	8.9	9.5	8.9	8.5	8.5	8.6	9.7	9.8	9.7	9.7
その他	5.7	4.5	4.4	3.0	3.0	2.9	2.9	1.7	1.6	1.5	1.5

(出所) 1971/72, 1975/76, 1980/81 年度: Saito and Lee Kin Kiong [1999], p.30. 1990/91 年度以降は、GUM, *Review of Financial, Economic and Social Condition* (1990/91, 1991/92, 1992/93, 1993/94, 1994/95, 1995/96, 1997/98 年度版)。

この点をミクロの実態調査から見てみよう。表 15 には 2001 年に実施した調査の村の世帯構成と所得推計を示した。一時点での推計に過ぎないが、ミャンマーの異なる農村地域での村内の世帯構成、所得の水準とその源泉を示すものとして参考にはなるであろう。

まず、第一に指摘できるのは、農村内に土地を持たない非農家層が大規模に存在するという点である。非農家の中には一部、非農業部門を主たる所得源とする世帯も存在するが、農業賃労働に依存する農業労働者世帯が圧倒的に多い。これらの農業労働者世帯はまた農村部の最貧層でもある。

第二に、農家の所得世帯においても、依然として農業所得が過半を占めているという点である（ただし、ゴム園などが主体のタニンダーイーは例外）。農家の中には、農業部門での蓄積を生かして精米業や運送業などの非農業自営業を始める者もでてきているが、それはまだ全体としては少数に留まると見られる。

また、筆者の調査した範囲内ではあるが、農村部から都市部への出稼ぎなどのケースもきわめて少ない。ヤンゴン近郊の農村では、世帯構成員がヤンゴンなどに出稼ぎに出ていたのは、非農家世帯 115 世帯中 3 世帯のみであった（岡本 2004）。土地なし農業労働者層が大量に滞留していること、また彼らの多くが極貧状態にあることから、労働移動のプッシュ要因は潜在的にあると考えられる。しかし、現実にはそれが起きていないことは、裏をかえせば都市労働市場の側のプル要因が小さいことを示唆しているのである。

すなわち、農村部居住世帯にとっての非農業就業機会は（都市部を含めて）絶対的に不足しており、市場経済化から 10 年以上経過した後も、ミャンマーの労働市場の動きはきわめて停滞的であるといえよう。

5. インフラ

最後に、市場向け生産、また広域流通の発展に不可欠なインフラ整備を若干検討しよう。図 11 には道路総延長とトラック台数を折れ線で示した。道路総延長は、市場経済化以後、増加傾向にあるが、とくに 2000 年前後からの舗装道の延長が著しい。トラック台数は、大型トラックが 1995/96 年度に一度著しく減少するが、その後、増加傾向にある。また、小型トラックも 1990 年代前半に急増し、その後微増を続けている。車両輸入が

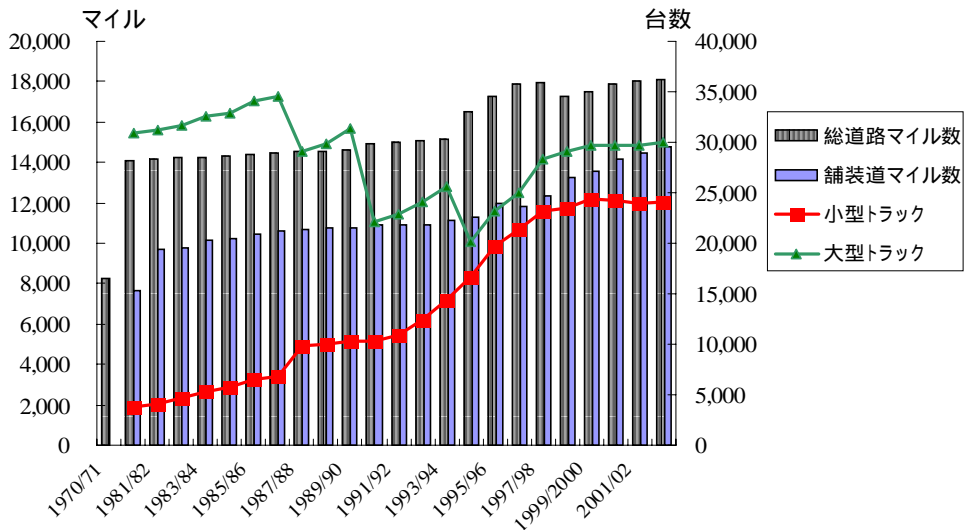
表15 農村世帯所得 (2001)

地域(管区)	農業類型	世帯数			標本数			平均世帯所得合計 (チャット)	源泉別構成比(ただし不労所得を除く)(%)				
		農家	非農家	合計	農家	非農家	合計		農業 自営	農業労働 所得 (日雇い)	農業労働 所得 (季節雇用)	非農業 所得	合計
エーヤーワディ	デルタ型稲作	232	283	515	67	33	100	129,446	61.5	12.6	2.3	23.6	100.0
バゴ	デルタ型稲作	213	243	456	60	40	100	152,786	57.3	14.0	10.7	18.0	100.0
マンガレー	ドライゾーン型稲作	118	101	219	65	37	102	203,057	61.3	11.1	0.8	26.8	100.0
マゲエ	畑作	326	336	662	24	16	40	217,555	69.1	10.4	0.0	20.5	100.0
マゲエ	ドライゾーン型畑作・稲作混合	334	176	510	24	16	40	77,981	61.8	26.4	1.3	10.4	100.0
シャン	山間部型農業(畑作・水田)	544	298	842	26	12	38	189,140	53.9	22.7	0.0	23.4	100.0
シャン	山間部型農業(畑作・谷地田)	422	75	497	34	6	40	166,207	70.2	11.7	0.0	18.1	100.0
タニターリー	沿岸部型農業(稲作・ゴム園)	647	520	1167	41	20	61	313,198	33.8	8.6	1.1	56.4	100.0
合計		2,836	2,032	4,868	341	180	521						
世帯分類別													
農家							341	202,204	73.6	5.0	0.1	21.2	100.0
	農地経営あり						14	137,467	23.1	21.4	0.0	55.6	100.0
	農業労働者						107	108,251	0.7	62.8	18.7	17.7	100.0
	非農業						59	190,476	7.6	8.4	1.3	82.7	100.0
全世帯							521	179,841	56.0	12.7	2.5	28.8	100.0

(出所) 栗田匡相・岡本郁子・黒崎卓・藤田幸一「ミャンマーにおける米増産至政策と農村経済 8 カ村家計調査データによる所得分析を中心に」
『アジア経済』第45巻第8号 p11,17から作成。

1990年代半ばから公式には禁止されていることを考えると、多くのトラックが密輸されていることが窺えるが、それは同時に輸送手段への国内需要が旺盛であることも示している。先に述べた生鮮農産物の広域流通が可能となったのはこうしたインフラ整備が一定程度進んだことも大きいのである。

図 11. 道路延長とトラック台数の推移



(出所) GSRUB, *Report to the Pyithu Hluttaw on the Financial, Economic and Social Conditions of the Socialist Republic of the Union of Burma* (1981/82 年版).

GUM, *Statistical Yearbook* (1991, 2002 年版).

おわりに

ミャンマーの農家をとりまく市場環境は、市場経済化以後激変したことはまちがいない。1980年末以降、投入財調達、生産、流通の各局面において、農家は全体として、国内市場、国内の市場の変動に大きく左右されるようになった。輸出入や国内流通が民間に開放されたことによって、マメ類や水産物などの新たな輸出品目が急成長を遂げた。一方で、油糧種子のように輸入品との競合にさらされているものもある。さらに、コメに端的に見られたように、政府の価格・貿易統制が根強く残存しているために、統制と市場の間で伸び悩む作物も存在する。

全体として市場との連関が強まったという上の事実は、額面通りに捉えれば、ミャンマーの農業セクターにおいて、過去 15 年余りの間に市場経済化が着実に進展してきたことを意味する。その変化が農村経済主体にいかなる影響をもたらしたかの問いに答えるためには、実態に即したきめ細かな検討を要することは言うまでもない。その検討は、今後の課題である。

〔参考文献〕

- 岡本郁子 [2001] 「農産物流通自由化と農村部における流通システムの形成—ミャンマー・リョクトウ産地の事例から—」『アジア経済』第 42 巻第 10 号 pp.2-36.
- [2003] 「ミャンマーにおける農産物流通自由化と農家経済—リョクトウ産地の事例から」高根務編『アフリカとアジアの農産物流通』アジア経済研究所 研究双書 503 pp.279-321.
- [2004]「ミャンマーにおける新作物普及と非農家層 - 農産物流通自由化後のマメ産地 3 カ村の事例から - 」『アジア経済』45 (2) 2004 年. pp.2-27.
- [2005] 「ミャンマー市場経済移行期のコモ流通」 藤田幸一編. 『ミャンマー移行経済の変容 - 市場と統制のはざままで - 』 アジア経済研究所:千葉. 2005 年. pp. 231-271.
- 栗田匡相・岡本郁子・黒崎卓・藤田幸一「ミャンマーにおける米増産至政策と農村経済—8 カ村家計調査データによる所得分析を中心に—」『アジア経済』第 45 巻第 8 号 pp.2-37.
- 高橋昭雄 [1992] 『ビルマデルタの米作村—社会主義体制下の農村経済—』研究双書 423, アジア経済研究所.
- [2000] 『現代ミャンマーの農村経済 移行経済下の農民と非農民』東京大学出版会.
- 藤田幸一 [2003] 「90 年代ミャンマーの稲二期作化と農業政策・農村金融—イラワジ管区—農村調査事例を中心に—」『経済研究』54 巻 4 号 pp.22-49.
- 藤田幸一・岡本郁子[2005] 「開放経済移行下のミャンマー農業」藤田幸一編. 『ミャンマー移行経済の変容 - 市場と統制のはざままで - 』アジア経済研究所:千葉. 2005 年. pp. 169-229.

<統計資料>

- Asian Development Bank. [2001] *Country Economic Report Myanmar Vol2: Statistical Appendixes*.
- FAO STAT (<http://faostat.fao.org/faostat/>).
- Fertilizer Advisory, Development and Information Network for Asia and the Pacific (FADINAP)
[1987] *Supply, Marketing, Distribution and Use of Fertilizer in Burma* Bangkok
- The Government of India. [2003] *Agricultural Statistics at a Glance*.
- The Government of Socialist Republic of the Union of Burma (GSRUB). (various issues). *Report to the Pyithu Hluttaw on the Financial, Economic and Social Conditions of the Socialist Republic of the Union of Burma*. Rangoon: Ministry of Planning and Finance.
- [1982] *Bi-Monthly Economic Indicators*. January and February 1982 Yangon: Central Statistical Office.
- [1984] *Agricultural Statistics for 1978-79, 1979-80 and 1980-81*.
- The Government of Union of Myanmar (GUM). (various issues). *Review of the Financial, Economic and Social Conditions*. Yangon: Ministry of National Planning and Economic Development.
- (various issues). *Agricultural Statistics*. Yangon: Central Statistical organization and Ministry of Agriculture and Irrigation.
- (various issues). *Statistical Yearbook*. Yangon: Central Statistical Office.
- (various issues). *Monthly Economic Indicators*. Yangon: Central Statistical Office.
- International Monetary Fund. (various issues). *International Financial Statistics*.
- Ministry of Agriculture and Irrigation [MOAI]. [2000] *The Long Term Agricultural Plan: 2000/01-2030/31*. (in Burmese) , Yangon.
- (various Issues). *MIS Price Bulletin*. Market Information Service Project (TCP/MYA/8821). Yangon.
- Ministry of Livestock and Fisheries. [2005] *Fisheries Statistics (2003-04)* Yangon: Department of Fisheries.
- Myanma Agriculture Service [MAS]. [1994] *Crop Production Situation (Union)* Yangon: Ministry of Agriculture.
- Saito, Teruko and Lee Kin Kiong. [1999] *Statistics on the Burmese Economy*. Singapore: Institute of Southeast Asian Studies.

付表1 主要農作物の作付面積の変化

(千エーカー)

年	コメ	マメ類	ゴマ	ラッカセイ	野菜	トウガラシ	タマネギ	ニンニク	綿花	サトウキビ	ゴム	のべ作付面積
1940/41	12,518	1,448	1,352	780					418	76	110	18,814
1945/46	6,642	757	1,218	621					263	32	111	11,736
1946/47	7,909	851	1,246	572					167	38	113	13,124
1947/48	9,264	970	1,380	727					218	45	113	14,972
1948/49	9,796	968	1,369	705					217	56	113	15,450
1949/50	9,017	995	1,335	698					213	44	114	14,701
1950/51	9,150	974	1,320	692					217	41	115	14,813
1951/52	9,458	968	1,331	719					247	53	116	15,174
1952/53	9,924	1,044	1,310	736					286	64	117	15,801
1953/54	10,133	1,101	1,337	822					298	88	117	16,163
1954/55	9,821	1,129	1,386	788					320	59	117	15,869
1955/56	10,008	1,037	1,421	829					426	65	118	16,185
1956/57	10,074	1,061	1,449	856					397	87	121	16,199
1957/58	9,849	1,112	1,400	880					349	90	121	15,952
1958/59	10,100	1,182	1,399	971					348	88	123	16,495
1959/60	10,377	1,339	1,532	1,044					369	67	132	17,002
1960/61	10,418	1,416	1,467	1,187					370	72	139	17,181
1961/62	11,359	1,382	1,529	1,395					468	95	155	19,013
1962/63	11,953	1,710	1,576	1,536	129	134	53	29	551	117	184	20,697
1963/64	12,475	1,855	1,610	1,490	128	134	39	20	674	97	207	21,536
1964/65	12,624	1,609	1,960	1,332	126	144	45	16	616	120	213	21,649
1965/66	12,390	1,707	1,998	1,315	153	185	46	16	567	143	215	21,684
1966/67	12,328	1,767	1,910	1,132	170	116	45	15	486		216	21,374
1967/68	12,193	1,616	2,051	1,259	175	128	46	15	526		219	21,367
1968/69	12,402	1,751	2,037	1,509	165	140	43	16	388	105	220	21,739
1969/70	12,243	1,631	2,257	1,510	188	173	54	18	362	99	219	21,761
1970/71	12,294	1,577	2,510	1,735	186	158	47	18	466	108	217	22,338
1971/72	12,300	1,854	2,292	1,674	208	140	50	17	554	129	214	22,701
1972/73	12,014	1,861	2,256	1,564	215	166	60	18	532	149	214	22,503
1973/74	12,575	1,689	2,660	1,638	203	154	44	17	527	132	213	23,277
1974/75	12,793	1,785	2,609	1,666	203	156	44	17	542	90	211	23,474
1975/76	12,858	1,656	2,465	1,696	210	179	42	17	514	119	207	23,331
1976/77	12,547	1,665	2,631	1,507	221	206	57	18	402	117	204	23,163
1977/78	12,690	1,749	2,696	1,481	229	180	58	19	405	128	204	23,580
1978/79	12,957	1,809	3,086	1,378	233	143	51	19	461	127	202	24,368
1979/80	12,420	1,721	2,563	1,200	454	157	52	22	480	111	202	23,304
1980/81	12,668	1,995	3,231	1,271	301	189	47	21	546	118	200	24,805
1981/82	12,610	2,113	3,385	1,478	295	147	52	20	559	133	199	25,123
1982/83	12,064	1,900	3,402	1,412	307	166	50	20	537	149	197	24,489
1983/84	11,938	2,164	3,308	1,385	325	176	57	24	563	144	195	25,100
1984/85	12,151	2,193	3,708	1,597	321	166	59	27	619	149	194	25,984
1985/86	12,114	2,249	3,489	1,470	351	177	56	27	532	165	190	25,662
1986/87	11,968	2,073	2,845	1,394	379	160	54	27	471	151	192	24,547
1987/88	11,531	2,022	2,933	1,327	391	161	45	26	425	133	193	23,870
1988/89	11,807	1,803	2,994	1,355	342	200	64	27	443	123	192	23,802
1989/90	12,057	2,116	3,158	1,380	342	205	58	27	379	113	190	24,344
1990/91	12,220	2,471	3,271	1,369	343	187	57	26	386	118	191	25,024
1991/92	11,935	3,126	3,184	1,261	391	221	60	28	424	136	188	25,426
1992/93	12,684	3,700	3,379	1,220	389	242	65	33	416	187	193	27,200
1993/94	14,021	3,753	3,211	1,204	391	217	57	30	356	154	205	28,134
1994/95	14,643	4,117	3,288	1,252	416	172	62	28	505	130	220	30,005
1995/96	15,166	4,808	3,153	1,303	445	158	66	29	937	165	259	31,837
1996/97	14,518	4,584	2,830	1,184	463	203	60	29	824	204	294	30,422
1997/98	14,294	4,967	2,430	1,111	514	190	69	35	659	266	333	30,336
1998/99	14,230	5,729	2,738	1,241	524	169	115	34	804	311	369	32,882
1999/2000	15,528	6,209	3,173	1,400	657	220	146	41	842	333	419	36,582
2000/2001	15,713	6,725	3,308	1,458	732	249	145	46	801	343	446	38,177
2001/2002	15,940	7,372	3,210	1,405	740	280	139	47	730	402	460	39,153
2002/2003	16,032	7,556	3,325	1,436	809	293	136	51	747	n.a	457	39,896

(出所)

1940/41-1962/63年度: GSRUB, Report to the Pyithu Hluttaw

on the Financial, Economic and Social Conditions of the Socialist Republic of the Union of Burma (1967/68年版).

1962/63 - 1993/94年度: Myanmar Agriculture Service, [1994] Crop Production Situation (Union)

1994/95-1999/2000年度: GUM, Agricultural Statistics (1989-90 to 1999-2000)

2000/01-2001/02年度: GUM, Statistical Yearbook (2002年版).

2002/03年度: 同上 (2003年版).

付表 2 主要農作物の総作付面積に占める作付面積比率の変化

(%)

年	コメ	マメ類	ゴマ	ラッカセイ	野菜	トウガラシ	タマネギ	ニンニク	綿花	サトウキビ	ゴム
1940/41	66.5	7.7	7.2	4.1					2.2	0.4	0.6
1945/46	56.6	6.5	10.4	5.3					2.2	0.3	0.9
1946/47	60.3	6.5	9.5	4.4					1.3	0.3	0.9
1947/48	61.9	6.5	9.2	4.9					1.5	0.3	0.8
1948/49	63.4	6.3	8.9	4.6					1.4	0.4	0.7
1949/50	61.3	6.8	9.1	4.7					1.4	0.3	0.8
1950/51	61.8	6.6	8.9	4.7					1.5	0.3	0.8
1951/52	62.3	6.4	8.8	4.7					1.6	0.3	0.8
1952/53	62.8	6.6	8.3	4.7					1.8	0.4	0.7
1953/54	62.7	6.8	8.3	5.1					1.8	0.5	0.7
1954/55	61.9	7.1	8.7	5.0					2.0	0.4	0.7
1955/56	61.8	6.4	8.8	5.1					2.6	0.4	0.7
1956/57	62.2	6.5	8.9	5.3					2.5	0.5	0.7
1957/58	61.7	7.0	8.8	5.5					2.2	0.6	0.8
1958/59	61.2	7.2	8.5	5.9					2.1	0.5	0.7
1959/60	61.0	7.9	9.0	6.1					2.2	0.4	0.8
1960/61	60.6	8.2	8.5	6.9					2.2	0.4	0.8
1961/62	59.7	7.3	8.0	7.3					2.5	0.5	0.8
1962/63	57.8	8.3	7.6	7.4	0.6	0.6	0.3	0.1	2.7	0.6	0.9
1963/64	57.9	8.6	7.5	6.9	0.6	0.6	0.2	0.1	3.1	0.5	1.0
1964/65	58.3	7.4	9.1	6.2	0.6	0.7	0.2	0.1	2.8	0.6	1.0
1965/66	57.1	7.9	9.2	6.1	0.7	0.9	0.2	0.1	2.6	0.7	1.0
1966/67	57.7	8.3	8.9	5.3	0.8	0.5	0.2	0.1	2.3	n.a	1.0
1967/68	57.1	7.6	9.6	5.9	0.8	0.6	0.2	0.1	2.5	n.a	1.0
1968/69	57.0	8.1	9.4	6.9	0.8	0.6	0.2	0.1	1.8	0.5	1.0
1969/70	56.3	7.5	10.4	6.9	0.9	0.8	0.2	0.1	1.7	0.5	1.0
1970/71	55.0	7.1	11.2	7.8	0.8	0.7	0.2	0.1	2.1	0.5	1.0
1971/72	54.2	8.2	10.1	7.4	0.9	0.6	0.2	0.1	2.4	0.6	0.9
1972/73	53.4	8.3	10.0	7.0	1.0	0.7	0.3	0.1	2.4	0.7	1.0
1973/74	54.0	7.3	11.4	7.0	0.9	0.7	0.2	0.1	2.3	0.6	0.9
1974/75	54.5	7.6	11.1	7.1	0.9	0.7	0.2	0.1	2.3	0.4	0.9
1975/76	55.1	7.1	10.6	7.3	0.9	0.8	0.2	0.1	2.2	0.5	0.9
1976/77	54.2	7.2	11.4	6.5	1.0	0.9	0.2	0.1	1.7	0.5	0.9
1977/78	53.8	7.4	11.4	6.3	1.0	0.8	0.2	0.1	1.7	0.5	0.9
1978/79	53.2	7.4	12.7	5.7	1.0	0.6	0.2	0.1	1.9	0.5	0.8
1979/80	53.3	7.4	11.0	5.1	1.9	0.7	0.2	0.1	2.1	0.5	0.9
1980/81	51.1	8.0	13.0	5.1	1.2	0.8	0.2	0.1	2.2	0.5	0.8
1981/82	50.2	8.4	13.5	5.9	1.2	0.6	0.2	0.1	2.2	0.5	0.8
1982/83	49.3	7.8	13.9	5.8	1.3	0.7	0.2	0.1	2.2	0.6	0.8
1983/84	47.6	8.6	13.2	5.5	1.3	0.7	0.2	0.1	2.2	0.6	0.8
1984/85	46.8	8.4	14.3	6.1	1.2	0.6	0.2	0.1	2.4	0.6	0.7
1985/86	47.2	8.8	13.6	5.7	1.4	0.7	0.2	0.1	2.1	0.6	0.7
1986/87	48.8	8.4	11.6	5.7	1.5	0.7	0.2	0.1	1.9	0.6	0.8
1987/88	48.3	8.5	12.3	5.6	1.6	0.7	0.2	0.1	1.8	0.6	0.8
1988/89	49.6	7.6	12.6	5.7	1.4	0.8	0.3	0.1	1.9	0.5	0.8
1989/90	49.5	8.7	13.0	5.7	1.4	0.8	0.2	0.1	1.6	0.5	0.8
1990/91	48.8	9.9	13.1	5.5	1.4	0.7	0.2	0.1	1.5	0.5	0.8
1991/92	46.9	12.3	12.5	5.0	1.5	0.9	0.2	0.1	1.7	0.5	0.7
1992/93	46.6	13.6	12.4	4.5	1.4	0.9	0.2	0.1	1.5	0.7	0.7
1993/94	49.8	13.3	11.4	4.3	1.4	0.8	0.2	0.1	1.3	0.5	0.7
1994/95	48.8	13.7	11.0	4.2	1.4	0.6	0.2	0.1	1.7	0.4	0.7
1995/96	47.6	15.1	9.9	4.1	1.4	0.5	0.2	0.1	2.9	0.5	0.8
1996/97	47.7	15.1	9.3	3.9	1.5	0.7	0.2	0.1	2.7	0.7	1.0
1997/98	47.1	16.4	8.0	3.7	1.7	0.6	0.2	0.1	2.2	0.9	1.1
1998/99	43.3	17.4	8.3	3.8	1.6	0.5	0.3	0.1	2.4	0.9	1.1
1999/2000	42.4	17.0	8.7	3.8	1.8	0.6	0.4	0.1	2.3	0.9	1.1
2000/2001	41.2	17.6	8.7	3.8	1.9	0.7	0.4	0.1	2.1	0.9	1.2
2001/2002	40.7	18.8	8.2	3.6	1.9	0.7	0.4	0.1	1.9	1.0	1.2

(出所) 付表1に同じ。